

「湿地に学ぶ」

スタート!

こんにちは。今年も学校設定科目「湿地に学ぶ」がスタートしました。本科目は、平成23年度(2011年)に設置された、船橋芝山高校オリジナルの科目です。

学校ビオトープ「芝山湿地」の看板には、「里山生態園」という説明も書かれています。本校が建つ台地は、谷津田と隣接しています。谷津田を流れる飯山満川沿いの、水の豊かな低地は、古くから水田が発達し、稲作が行われていました。水辺では稲作が行われる他、アシ原が育ち、水生植物カエル・トンボやホタルといった生き物の宝庫でした。「芝山湿地」では、かつてこの土地にいた水辺の生き物がいた環境を再現し、環境教育の場としています。

「湿地に学ぶ」の授業では、生徒が自分の手で稲を育て、田植え・草取り・稲刈りなどの稲作作業を行い、1年の最後では自分たちが育てたお米で餅つきをして、お餅を食べます。「芝山湿地」という身近な環境から体験を通して学び、地域の環境・歴史・文化を学ぶ。さあ! 草刈りに追われ、ドロロンコになる1年間、楽しく学びましょう!!

※写真は、平成26年度の様子



稲刈り&餅つき!

学校設定科目「湿地に学ぶ」履修者の皆さんと、毎年稲を育て、収穫したお米で餅つきをしています。平成26年度は、「神仁穂」(かんにほ)という品種を育てました。

この品種は、もともと「注連縄」(しめなわ)用だったとされ、赤褐色の穂がとてもキレイです。

「赤米」の「モチ品種」と伺っていたのですが、脱穀・精米してみると・・・赤くない。

慌てて種籾を分けてくださった方に電話すると、なんと神仁穂は、「炊くと赤くなる」とのこと!で、炊いてみました。なるほど、ほんのり赤くなりました。これは、アントシアンの赤ではなく、タンニン系の色のようです。また、食感は「ウルチとモチの中間」といった感じで、旨味があり実に美味しいお米でした。



担当教員より

自然の美しさ・楽しさ・厳しさが、よ～～～く理解できる科目です。楽しくやりましょう!(下山)
里山に生きる、生物の名前をいっぱいおぼえよう!(阿部)